2026　年度　授業計画(シラバス)　　大阪保健福祉専門学校

学　科	介護福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	介護過程Ⅱ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(2)　時間(単位)
対象学年	2年生	学期及び曜時限	後期　月曜3限	教室名	502・体育室
担当教員	清水　公二	実務経験とその関連資格	介護福祉士 特別養護老人ホームにて約10年勤務		

《授業科目における学習内容》

これまで学んだ介護の知識、技術を活かし介護過程を展開する上で利用者に個別性を理解する。また、介護計画を立案し利用者主体の適切な介護サービスの意味を理解できるようにする。

《成績評価の方法と基準》

科目修了試験:70%　出席評価点:20%　平常評価点10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

教科書:新・介護福祉士養成講座　介護過程

《授業外における学習方法》

介護実習において介護計画の立案・実施および振り返り

《履修に当たっての留意点》

介護現場において根拠ある生活支援をするために必要な内容です。学内の講義と実習での演習を繋ぐ学びを意識すること。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	業界セミナーに参加し、各施設に理念や概要、取り組みなどの情報を得て比較分析し研究することができる	・配布資料	関連する施設のパンフレットやホームページをよく見ておくこと
		各コマにおける授業予定	福祉業界の専門領域の知識を、施設職員と積極的にコミュニケーションをとることによって理解することができる		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	業界セミナーに参加し、各施設に理念や概要、取り組みなどの情報を得て比較分析し研究することができる	・配布資料	関連する施設のパンフレットやホームページをよく見ておくこと
		各コマにおける授業予定	福祉業界の専門領域の知識を、施設職員と積極的にコミュニケーションをとることによって理解することができる		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	業界セミナーに参加し、各施設に理念や概要、取り組みなどの情報を得て比較分析し研究することができる	・配布資料	関連する施設のパンフレットやホームページをよく見ておくこと
		各コマにおける授業予定	福祉業界の専門領域の知識を、施設職員と積極的にコミュニケーションをとることによって理解することができる		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	業界セミナーに参加し、各施設に理念や概要、取り組みなどの情報を得て比較分析し研究することができる	・配布資料	関連する施設のパンフレットやホームページをよく見ておくこと
		各コマにおける授業予定	福祉業界の専門領域の知識を、施設職員と積極的にコミュニケーションをとることによって理解することができる		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	業界セミナーに参加し、各施設に理念や概要、取り組みなどの情報を得て比較分析し研究することができる	・配布資料	関連する施設のパンフレットやホームページをよく見ておくこと
		各コマにおける授業予定	福祉業界の専門領域の知識を、施設職員と積極的にコミュニケーションをとることによって理解することができる		

授業の方法		内　　容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	業界セミナーに参加し、各施設に理念や概要、取り組みなどの情報を得て比較分析し研究することができる	・配布資料	関連する施設のパンフレットやホームページをよく見ておくこと
		各コマにおける授業予定	福祉業界の専門領域の知識を、施設職員と積極的にコミュニケーションをとることによって理解することができる		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	業界セミナーに参加し、各施設に理念や概要、取り組みなどの情報を得て比較分析し研究することができる	・配布資料	関連する施設のパンフレットやホームページをよく見ておくこと
		各コマにおける授業予定	福祉業界の専門領域の知識を、施設職員と積極的にコミュニケーションをとることによって理解することができる		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	業界セミナーに参加し、各施設に理念や概要、取り組みなどの情報を得て比較分析し研究することができる	・配布資料	関連する施設のパンフレットやホームページをよく見ておくこと
		各コマにおける授業予定	福祉業界の専門領域の知識を、施設職員と積極的にコミュニケーションをとることによって理解することができる		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	業界セミナーに参加し、各施設に理念や概要、取り組みなどの情報を得て比較分析し研究することができる	・配布資料	関連する施設のパンフレットやホームページをよく見ておくこと
		各コマにおける授業予定	福祉業界の専門領域の知識を、施設職員と積極的にコミュニケーションをとることによって理解することができる		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	業界セミナーに参加し、各施設に理念や概要、取り組みなどの情報を得て比較分析し研究することができる	・配布資料	関連する施設のパンフレットやホームページをよく見ておくこと
		各コマにおける授業予定	福祉業界の専門領域の知識を、施設職員と積極的にコミュニケーションをとることによって理解することができる		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	業界セミナーに参加し、各施設に理念や概要、取り組みなどの情報を得て比較分析し研究することができる	・配布資料	関連する施設のパンフレットやホームページをよく見ておくこと
		各コマにおける授業予定	福祉業界の専門領域の知識を、施設職員と積極的にコミュニケーションをとることによって理解することができる		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	業界セミナーに参加し、各施設に理念や概要、取り組みなどの情報を得て比較分析し研究することができる	・配布資料	関連する施設のパンフレットやホームページをよく見ておくこと
		各コマにおける授業予定	福祉業界の専門領域の知識を、施設職員と積極的にコミュニケーションをとることによって理解することができる		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	業界セミナーに参加し、各施設に理念や概要、取り組みなどの情報を得て比較分析し研究することができる	・配布資料	関連する施設のパンフレットやホームページをよく見ておくこと
		各コマにおける授業予定	福祉業界の専門領域の知識を、施設職員と積極的にコミュニケーションをとることによって理解することができる		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	業界セミナーに参加し、各施設に理念や概要、取り組みなどの情報を得て比較分析し研究することができる	・配布資料	関連する施設のパンフレットやホームページをよく見ておくこと
		各コマにおける授業予定	福祉業界の専門領域の知識を、施設職員と積極的にコミュニケーションをとることによって理解することができる		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	業界セミナーに参加し、各施設に理念や概要、取り組みなどの情報を得て比較分析し研究することができる	・配布資料	関連する施設のパンフレットやホームページをよく見ておくこと
		各コマにおける授業予定	福祉業界の専門領域の知識を、施設職員と積極的にコミュニケーションをとることによって理解することができる		

2026　年度　授業計画（シラバス）　　大阪保健福祉専門学校

学　科	介護福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	生活支援技術Ⅱ（理論）	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(2)　時間(単位)
対象学年	1年生	学期及び曜時限	後期　火曜1・2限	教室名	401・402
担当教員	信田かほり	実務経験とその関連資格	高齢者施設にて約10年間、介護福祉士として勤務。専門学校にて8年専任教員として勤務し、非常勤講師としても生活支援技術の演習・理論の授業を担当。		

《授業科目における学習内容》

・利用者主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を学習する。
・基本的介護技術を習得するにあたり、原理・原則を理解し、自立支援・要介護者の個々の生活に違いがあることを理解する。

《成績評価の方法と基準》

科目修了試験(70%)　出席評価点(20%)　平常評価点(10%)

《使用教材（教科書）及び参考図書》

中央法規　最新・介護福祉士養成講座6「生活支援技術Ⅰ」
中央法規　最新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」

《授業外における学習方法》

教科書の指定部分の予習、復習（小テスト勉強）

《履修に当たっての留意点》

・どの介助においても利用者の個別性を尊重し、ひとつひとつ根拠を持って理解すること

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	・排泄介護の意義と目的について理解できる ・自立に向けた排泄介護について理解できる	最新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	・ICFについての振り返り（前期試験から） ・排泄介護の意義と目的、特徴について学習する ・トイレ、ポータブルトイレでの排泄の介助について学習する		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	・利用者の心身の状況、状態に応じた適切な排泄方法を理解できる ・利用者の尊厳を遵守した排泄介護の留意点について理解できる	最新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	・小テスト①（排泄） ・尿器、差し込み便器での排泄の介助について学習する ・おむつでの排泄の介助について学習する（紙おむつ・布おむつ）		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	・頻尿、尿失禁、便秘、下痢、便失禁の対応について理解できる	最新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	・自然排尿を困難にするおもな排尿障害について学習する ・自然排便を困難にするおもな排尿障害について学習する		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	・排泄に関するさまざまな介助について理解できる ・排泄における他職種との連携の必要性について理解できる	最新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。小テスト内容の勉強をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	・小テスト②（排泄） ・自己導尿、座薬や浣腸、ストーマについて学習する ・排泄介護における他職種との連携について学習する		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	・入浴、清潔保持における意義と目的が理解できる ・自立に向けた入浴・清拭保持の介護について理解できる	最新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。小テスト内容の勉強をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	・小テスト③（排泄） ・入浴と清潔保持の意義と目的について学習する ・利用者を主体とした安心、安全、安楽な入浴について学習する		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	・入浴介助における福祉用具の使用方法、留意点が理解できる ・自立に向けた入浴・清拭保持の介護について理解できる	最新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。小テスト内容の勉強をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	・入浴、清潔保持における福祉用具について学習する ・シャワー浴、部分浴について学習する		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	・利用者を主体とした安全、安楽な清潔保持について理解できる ・入浴、清潔保持の介護における多職種との連携について理解できる	最新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。小テスト内容の勉強をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	・小テスト④（入浴） ・清潔保持の介助について学習する ・入浴、清潔保持における多職種との連携について学習する		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	・食事介助の意義と目的について理解できる ・自立に向けた食事の介護について理解できる	最新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。小テスト内容の勉強をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	・小テスト⑤（入浴・清潔保持） ・自立した食事のあり方、食事の一連の流れについて学習する ・食事における福祉用具について学習する		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	・自立に向けた基本的な食事介助の技術について理解できる ・利用者の心身の状態・状況に応じた適切な食事介助の方法について理解できる	最新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。小テスト内容の勉強をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	・小テスト⑥（食事） ・利用者の状態に応じた食事の介助について学習する ・誤嚥の予防のための支援について学習する		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	・休息・睡眠の介護について理解できる ・日常生活における休息、睡眠の重要性について理解できる	最新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	・小テスト⑦（食事） ・休息と睡眠（レム睡眠、ノンレム睡眠）、効果について学習する ・快適な睡眠の一連の流れについて学習する		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	・安眠を促すための基本的な支援方法が理解できる ・休息、睡眠における他職種との連携の重要性について理解できる	最新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。小テスト内容の勉強をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	・小テスト⑧（睡眠） ・介護福祉士の行う安眠を促す支援について学習する ・睡眠障害とその支援について学習する		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	・人生の最終手段の意義と介護の役割について理解できる	最新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	・小テスト⑨（休息・睡眠について） ・人生の最終段階における介護の意義と役割について学習する ・人生の最終段階におけるアセスメントの視点について学習する		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	・人生の最終段階における介護について理解できる	最新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。小テスト内容の勉強をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	・死を迎える人の支援方法について学習する ・死を迎えた人とその家族への介護について学習する		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	・後期に学んだ内容が理解できる	最新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	・小テスト⑩（人生の最終段階における介護） ・後期まとめ、試験内容の発表、試験対策（プリント）		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	・前期・後期に学んだ内容が理解できる	最新・介護福祉士養成講座6、7「生活支援技術Ⅰ、Ⅱ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	・試験対策		

2026　年度　授業計画(シラバス)　　大阪保健福祉専門学校

学　科	介護福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	介護過程Ⅲ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(2)　時間(単位)
対象学年	2年生	学期及び曜時限	後期　月曜4限	教室名	502・体育室
担当教員	清水　公二	実務経験とその関連資格	介護福祉士 特別養護老人ホームにて約10年勤務		

《授業科目における学習内容》

これまで学んだ介護の知識、技術を活かし介護過程を展開する上で利用者に個別性を理解する。また、介護計画を立案し利用者主体の適切な介護サービスの意味を理解できるようにする。

《成績評価の方法と基準》

科目修了試験:70%　出席評価点:20%　平常評価点10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

教科書:新・介護福祉士養成講座　介護過程

《授業外における学習方法》

介護実習において介護計画の立案・実施および振り返り

《履修に当たっての留意点》

介護現場において根拠ある生活支援をするために必要な内容です。学内の講義と実習での演習を繋ぐ学びを意識すること。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	業界セミナーに参加し、各施設に理念や概要、取り組みなどの情報を得て比較分析し研究することができる	・配布資料	関連する施設のパンフレットやホームページをよく見ておくこと
		各コマにおける授業予定	福祉業界の専門領域の知識を、施設職員と積極的にコミュニケーションをとることによって理解することができる		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	業界セミナーに参加し、各施設に理念や概要、取り組みなどの情報を得て比較分析し研究することができる	・配布資料	関連する施設のパンフレットやホームページをよく見ておくこと
		各コマにおける授業予定	福祉業界の専門領域の知識を、施設職員と積極的にコミュニケーションをとることによって理解することができる		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	業界セミナーに参加し、各施設に理念や概要、取り組みなどの情報を得て比較分析し研究することができる	・配布資料	関連する施設のパンフレットやホームページをよく見ておくこと
		各コマにおける授業予定	福祉業界の専門領域の知識を、施設職員と積極的にコミュニケーションをとることによって理解することができる		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	業界セミナーに参加し、各施設に理念や概要、取り組みなどの情報を得て比較分析し研究することができる	・配布資料	関連する施設のパンフレットやホームページをよく見ておくこと
		各コマにおける授業予定	福祉業界の専門領域の知識を、施設職員と積極的にコミュニケーションをとることによって理解することができる		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	業界セミナーに参加し、各施設に理念や概要、取り組みなどの情報を得て比較分析し研究することができる	・配布資料	関連する施設のパンフレットやホームページをよく見ておくこと
		各コマにおける授業予定	福祉業界の専門領域の知識を、施設職員と積極的にコミュニケーションをとることによって理解することができる		

授業の方法		内　　容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	業界セミナーに参加し、各施設に理念や概要、取り組みなどの情報を得て比較分析し研究することができる	・配布資料	関連する施設のパンフレットやホームページをよく見ておくこと
		各コマにおける授業予定	福祉業界の専門領域の知識を、施設職員と積極的にコミュニケーションをとることによって理解することができる		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	業界セミナーに参加し、各施設に理念や概要、取り組みなどの情報を得て比較分析し研究することができる	・配布資料	関連する施設のパンフレットやホームページをよく見ておくこと
		各コマにおける授業予定	福祉業界の専門領域の知識を、施設職員と積極的にコミュニケーションをとることによって理解することができる		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	業界セミナーに参加し、各施設に理念や概要、取り組みなどの情報を得て比較分析し研究することができる	・配布資料	関連する施設のパンフレットやホームページをよく見ておくこと
		各コマにおける授業予定	福祉業界の専門領域の知識を、施設職員と積極的にコミュニケーションをとることによって理解することができる		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	業界セミナーに参加し、各施設に理念や概要、取り組みなどの情報を得て比較分析し研究することができる	・配布資料	関連する施設のパンフレットやホームページをよく見ておくこと
		各コマにおける授業予定	福祉業界の専門領域の知識を、施設職員と積極的にコミュニケーションをとることによって理解することができる		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	業界セミナーに参加し、各施設に理念や概要、取り組みなどの情報を得て比較分析し研究することができる	・配布資料	関連する施設のパンフレットやホームページをよく見ておくこと
		各コマにおける授業予定	福祉業界の専門領域の知識を、施設職員と積極的にコミュニケーションをとることによって理解することができる		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	業界セミナーに参加し、各施設に理念や概要、取り組みなどの情報を得て比較分析し研究することができる	・配布資料	関連する施設のパンフレットやホームページをよく見ておくこと
		各コマにおける授業予定	福祉業界の専門領域の知識を、施設職員と積極的にコミュニケーションをとることによって理解することができる		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	業界セミナーに参加し、各施設に理念や概要、取り組みなどの情報を得て比較分析し研究することができる	・配布資料	関連する施設のパンフレットやホームページをよく見ておくこと
		各コマにおける授業予定	福祉業界の専門領域の知識を、施設職員と積極的にコミュニケーションをとることによって理解することができる		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	業界セミナーに参加し、各施設に理念や概要、取り組みなどの情報を得て比較分析し研究することができる	・配布資料	関連する施設のパンフレットやホームページをよく見ておくこと
		各コマにおける授業予定	福祉業界の専門領域の知識を、施設職員と積極的にコミュニケーションをとることによって理解することができる		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	業界セミナーに参加し、各施設に理念や概要、取り組みなどの情報を得て比較分析し研究することができる	・配布資料	関連する施設のパンフレットやホームページをよく見ておくこと
		各コマにおける授業予定	福祉業界の専門領域の知識を、施設職員と積極的にコミュニケーションをとることによって理解することができる		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	業界セミナーに参加し、各施設に理念や概要、取り組みなどの情報を得て比較分析し研究することができる	・配布資料	関連する施設のパンフレットやホームページをよく見ておくこと
		各コマにおける授業予定	福祉業界の専門領域の知識を、施設職員と積極的にコミュニケーションをとることによって理解することができる		

2026　年度 授業計画(シラバス)　　大阪保健福祉専門学校

学科	介護福祉科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	生活支援技術Ⅰ(理論)		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対象学年	1年生		学期及び曜時限	前期 水曜日1・2限	教室名	401・402
担当教員	西山 貴子	実務経験とその関連資格	介護老人保健施設・病院の管理栄養士として勤務。その後、各種専門学校(調理師・製菓衛生士、介護福祉士等)、栄養士・管理栄養士養成短大・大学等にて講師。その他、特定保健指導、クリニックの栄養指導なども経験。			

《授業科目における学習内容》

家庭生活の中での家事・調理の必要性を理解した上で、介護の基礎となる家庭生活・家庭経営に関する知識・技術を習得し、安全に支援できる知識・技術を習得する。

《成績評価の方法と基準》

試験:70%、出席評価点:20%、平常点:10点

《使用教材(教科書)及び参考図書》

・最新　介護福祉士養成講座6　生活支援技術Ⅰ　中央法規

《授業外における学習方法》

・日頃から衣食住等の日常生活の物事に関心を持ち、普段どのようなものを食べているのか考え、健康管理を実践していきましょう。

《履修に当たっての留意点》

・配布資料はファイル等に綴じ、授業前に復習しておく。
・レポート等の提出物の提出期限に注意すること。

授業の方法			内容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	家族の形態とその機能について理解できる	・教科書「最新/介護福祉士養成講座6　生活支援技術Ⅰ」 ・配布レジュメ	・授業内容の予習・復習を行うこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	家庭生活の営み(家庭生活とは、日本の家庭生活の変化)		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	家計における収入と支出について理解できる	・教科書「最新/介護福祉士養成講座6　生活支援技術Ⅰ」 ・配布レジュメ	・授業内容の予習・復習を行うこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	家計設計の考え方①(家庭管理・家庭経済)		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	クーリングオフや悪質商法の内容について理解できる	・教科書「最新/介護福祉士養成講座6　生活支援技術Ⅰ」 ・配布レジュメ	・授業内容の予習・復習を行うこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	家計設計の考え方②(消費者保護)		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	家事の意義と目的や食生活の変化について理解できる	・教科書「最新/介護福祉士養成講座6　生活支援技術Ⅰ」 ・配布レジュメ	・授業内容の予習・復習を行うこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	自立に向けた家事の介護(家事の意義と目的、食生活の変化)		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	炭水化物・たんぱく質・脂質について理解できる	・教科書「最新/介護福祉士養成講座6　生活支援技術Ⅰ」 ・配布レジュメ	・授業内容の予習・復習を行うこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	栄養素の理解①(五大栄養素:炭水化物・たんぱく質・脂質)		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	無機質・ビタミンについて理解できる	・教科書「最新/介護福祉士養成講座6　生活支援技術Ⅰ」 ・配布レジュメ	・授業内容の予習・復習を行うこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	栄養素の理解②（五大栄養素：無機質・ビタミン）		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	消費期限・賞味期限の違いについて理解できる	・教科書「最新/介護福祉士養成講座6　生活支援技術Ⅰ」 ・配布レジュメ	・授業内容の予習・復習を行うこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	食品の購入と選択（消費期限と賞味期限）		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	食品添加物・食品の保存について理解できる	・教科書「最新/介護福祉士養成講座6　生活支援技術Ⅰ」 ・配布レジュメ	・授業内容の予習・復習を行うこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	食品衛生（食品添加物・食品保存）		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	食中毒について理解できる	・教科書「最新/介護福祉士養成講座6　生活支援技術Ⅰ」 ・配布レジュメ	・授業内容の予習・復習を行うこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	食品衛生（食中毒）		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	食事介助の基本や身体機能の変化について理解できる	・教科書「最新/介護福祉士養成講座6　生活支援技術Ⅰ」 ・配布レジュメ	・授業内容の予習・復習を行うこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	自立に向けた食事の介護（食事介助の基本・身体機能の変化について）		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者への配慮（食品や調理・体調不良など）について理解できる	・教科書「最新/介護福祉士養成講座6　生活支援技術Ⅰ」 ・配布レジュメ	・授業内容の予習・復習を行うこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	高齢者の食事と調理（食品や調理・体調不良による配慮）		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	生活習慣病、糖尿病の食、脱水について理解できる	・教科書「最新/介護福祉士養成講座6　生活支援技術Ⅰ」 ・配布レジュメ	・授業内容の予習・復習を行うこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	疾患と食事（生活習慣病について、糖尿病、低栄養状態、脱水など）		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	被服の機能、素材について理解できる	・教科書「最新/介護福祉士養成講座6　生活支援技術Ⅰ」 ・配布レジュメ	・授業内容の予習・復習を行うこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	被服生活の基礎知識（被服の機能、素材など）		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	洗濯表示や漂白剤の種類と用途について理解できる	・教科書「最新/介護福祉士養成講座6　生活支援技術Ⅰ」 ・配布レジュメ	・授業内容の予習・復習を行うこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	洗濯表示（洗濯表示、漂白剤の種類と用途）		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	1回～14回のまとめ　これまでの授業の振り返りができる	・教科書「最新/介護福祉士養成講座6　生活支援技術Ⅰ」 ・配布レジュメ	・これまでの授業の復習を行うこと
		各コマにおける授業予定	まとめ		

2026　年度　授業計画(シラバス)　　大阪保健福祉専門学校

学科	介護福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	演習
科目名	生活支援技術Ⅱ(演習)	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60　(2)　時間(単位)
対象学年	1年生	学期及び曜時限	後期　月曜1～4限	教室名	介護実習室
担当教員	尾崎・上木・信田	実務経験とその関連資格	(信田)高齢者施設にて約8年間、介護福祉士として勤務。専門学校にて8年専任教員として勤務し、非常勤講師としても演習の授業を担当。(上木)介護老人保健施設での勤務5年を経て、専任教員として科目を受け持つ。(尾崎)介護老人保健施設にて5年勤務を経て、専任教員として演習を担当。		

《授業科目における学習内容》

尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの視点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。

《成績評価の方法と基準》

レポート課題・授業態度(10%)、出席(20%)、試験(70%)

《使用教材(教科書)及び参考図書》

最新　介護福祉士養成講座7　生活支援技術Ⅱ(中央法規)
最新　介護福祉士養成講座6　生活支援技術Ⅰ(中央法規)

《授業外における学習方法》

指定した教科書を事前に読んでおくこと、毎回授業の最初に前回授業内容についての確認をするので、復習しておくこと。

《履修に当たっての留意点》

介護福祉士についての職業理解ができ、必要な知識や技術を身につけることができるよう、意欲的に授業に取り組む。

授業の方法			内容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	ボディメカニクスを応用した、利用者と介護者の身体的負担が少ない介助方法を学ぶ。介護の原則「安心・安楽、自立支援、個人の尊厳」にのっとり、利用者が安心して活動・運動するための基本技術が習得できる。	最新　介護福祉士養成講座6　介護技術Ⅱ	使用教材82ページから152ページまでを読んでおく。
		各コマにおける授業予定	移動介護、体位交換、安楽な体位		
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	入浴・清潔の目的は何か、清潔の保持が生活にどのような影響と意義をもつのかを理解する(知識・技術の土台)入浴・清潔保持を安全・安楽に行い、尊厳を守り、自立支援を可能にするために欠かせないアセスメントの力をつけることができる(知識と技術)	最新　介護福祉士養成講座7　介護技術Ⅱ	使用教材116ページから126ページまでを読んでおく。
		各コマにおける授業予定	入浴介助　特殊浴槽		
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	入浴・清潔の目的は何か、清潔の保持が生活にどのような影響と意義をもつのかを理解する(知識・技術の土台)入浴・清潔保持を安全・安楽に行い、尊厳を守り、自立支援を可能にするために欠かせないアセスメントの力をつけることができる(知識と技術)	最新　介護福祉士養成講座7　介護技術Ⅱ	使用教材147ページから150ページまでを読んでおく。
		各コマにおける授業予定	入浴介助　洗髪　ケリーパット		
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	入浴・清潔の目的は何か、清潔の保持が生活にどのような影響と意義をもつのかを理解する(知識・技術の土台)入浴・清潔保持を安全・安楽に行い、尊厳を守り、自立支援を可能にするために欠かせないアセスメントの力が身についている(知識と技術)	最新　介護福祉士養成講座7　介護技術Ⅱ	使用教材141ページから147ページまでを読んでおく。
		各コマにおける授業予定	入浴介護　手浴・足浴		
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	介護を必要とする利用者の心身の状態・状況に応じた適切な排泄方法を学ぶ。排泄の介護における根拠について、説明できる力を身につける。利用者の尊厳を遵守した排泄介護の留意点を習得できている。	最新　介護福祉士養成講座7　介護技術Ⅱ	使用教材169ページから202ページまでを読んでおく。
		各コマにおける授業予定	排泄介護　オムツ交換(紙オムツ)		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	介護を必要とする利用者の心身の状態・状況に応じた適切な排泄方法を学ぶ。排泄の介護における根拠について、説明できる力を身につける。利用者の尊厳を遵守した排泄介護の留意点を習得できる。	最新　介護福祉士養成講座7　介護技術Ⅱ	使用教材169ページから202ページまでを読んでおく。
		各コマにおける授業予定	排泄介護　オムツ交換（布オムツ）		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	介護を必要とする利用者の心身の状態・状況に応じた適切な排泄方法を学ぶ。排泄の介護における根拠について、説明できる力を身につける。利用者の尊厳を遵守した排泄介護の留意点を習得できる。	最新　介護福祉士養成講座7　介護技術Ⅱ	使用教材179ページから186ページまでを読でおく。
		各コマにおける授業予定	排泄介護　ポータブルトイレ		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	介護を必要とする利用者の心身の状態・状況に応じた適切な排泄方法を学ぶ。排泄の介護における根拠について、説明できる力を身につける。利用者の尊厳を遵守した排泄介護の留意点を習得できる。	最新　介護福祉士養成講座6　介護技術Ⅰ	使用教材178186ページから195ページまでを読んでおく。
		各コマにおける授業予定	排泄介護　尿器・差込便器		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	介護を必要とする利用者の心身の状態・状況に応じた適切な排泄方法を学ぶ。排泄の介護における根拠について、説明できる力を身につける。利用者の尊厳を遵守した排泄介護の留意点を習得できる。	最新　介護福祉士養成講座6　介護技術Ⅰ	使用教材169ページから202ページまでを読んでおく。
		各コマにおける授業予定	排泄介護　オムツ交換（紙オムツ）		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	介護を必要とする利用者の心身の状態・状況に応じた適切な排泄方法を学ぶ。排泄の介護における根拠について、説明できる力を身につける。利用者の尊厳を遵守した排泄介護の留意点を習得できる。	最新　介護福祉士養成講座7　介護技術Ⅱ	使用教材169ページから202ページまでを読んでおく。
		各コマにおける授業予定	排泄介護　オムツ交換（紙オムツ）小テスト		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	ボディメカニクスを応用した、利用者と介護者の身体的負担が少ない介助方法を学ぶ。介護の原則「安心・安楽、自立支援、個人の尊厳」にのっとり、利用者が安心して活動・運動するための基本技術が習得できる。	最新　介護福祉士養成講座7　介護技術Ⅱ	使用教材136ページから152ページまでを読んでおく。
		各コマにおける授業予定	移動介護　車椅子		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	快適な室内環境を整備するための基本的事項をおさえたうえで、加齢変化にともなって注意が必要となる点を理解できる。	最新　介護福祉士養成講座6　介護技術Ⅱ	使用教材46ページから55ページと今まで学んできた使用教材の内容を確認しておく。
		各コマにおける授業予定	環境整備		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	ボディメカニクスを応用した、利用者と介護者の身体的負担が少ない介助方法を学ぶ。介護の原則「安心・安楽、自立支援、個人の尊厳」にのっとり、利用者が安心して活動・運動するための基本技術が習得できる。	最新　介護福祉士養成講座7　介護技術Ⅱ	今まで学んできた使用教材の内容を確認しておく。
		各コマにおける授業予定	バイタルサイン（体温・血圧・脈拍・呼吸）移動介護　事例		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	前期に学んできた介護技術が理解できているか確認でき、理解を深めることができる。	最新　介護福祉士養成講座6　介護技術Ⅰ	今まで学んできた使用教材の内容を確認しておく。
		各コマにおける授業予定	後期のまとめ		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	前期に学んできた介護技術が理解できているか確認し、理解を深めることができる。	最新　介護福祉士養成講座6　介護技術Ⅰ、最新介護福祉士養成講座7　介護技術Ⅱ	今まで学んできた使用教材の内容を確認しておく。
		各コマにおける授業予定	後期のまとめ		

2026　年度　授業計画（シラバス）　　大阪保健福祉専門学校

学　科	介護福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	こころとからだのしくみⅡ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(2)　時間(単位)
対象学年	2年生	学期及び曜時限	前期　火曜4限	教室名	502.601
担当教員	立脇　一美	実務経験とその関連資格	看護師としての臨床経験が約30年。社会福祉士として介護認定審査会委員を約20年。介護支援専門員・認知症ケア専門士の資格あり。		

《授業科目における学習内容》

人間の生活行為の一つひとつには、なぜその行為を行うのかという理由や根拠が必ず存在する。またその行為を遂行するために、タイムリーに「こころ」と「からだ」の機能が柔軟に変化し続け、同時に双方がバランスを保っている。特に高齢者や障害者などは心身機能の低下が生活機能に及ぼす影響が大きく、具体的には現場において、心身機能を考慮した上での質的対応が必要となる。
一つの生活行為に随伴してからだの中でどのようなことが起こっているのか、解剖生理学的な理解を中心に、生活援助の妥当性について説明することができる。

《成績評価の方法と基準》

科目修了試験:70%　出席評価点:20%　平常評価点:10%

《使用教材（教科書）及び参考図書》

教科書:新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ（中央法規）

《授業外における学習方法》

次回授業予定の内容について、教科書の該当範囲を熟読しておくこと(1時間程度)。
授業終了後、板書内容や教科書を中心にまとめ、次回の授業に臨むこと(1時間程度)。
地域の高齢者や障害者の生活パターンに興味をもって観察を行い、実際に接する機会をもつなど、日常的な意識化を図ること。

《履修に当たっての留意点》

精神的・身体的・社会的な健康を理解したうえで、利用者の健康状態を判断する基準、そして介護福祉士として利用者の生活の困難さを測る基準となる知識をしっかりと理解していきましょう。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	移動に関する「骨」の解剖生理について知見を高めることができる。	・教科書 新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ	予習:教科書の該当範囲を読む(1時間程度). 復習:板書内容や教科書を中心にまとめ、ノート整理を行う(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	骨の名称、骨の解剖的理解、骨の強化の必要性に焦点を当て、それに関連する疾患についてもあわせて講義を行う。		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	移動に関する「筋肉」の解剖生理について知見を高めることができる。	・教科書 新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ	予習:教科書の該当範囲を読む(1時間程度). 復習:板書内容や教科書を中心にまとめ、ノート整理を行う(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	筋肉の名称、筋力の強化の必要性、筋力低下の弊害、フレイルとサルコペニアの違いに焦点を当て、それに関連する疾患についてもあわせて講義を行う。		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	関節可動域と主動作筋について知見を高めることができる。	・教科書 新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ	予習:教科書の該当範囲を読む(1時間程度). 復習:板書内容や教科書を中心にまとめ、ノート整理を行う(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	抗重力筋や関節の屈曲と伸展、内転と外転、内旋と外旋、回内と回外に焦点を当て、それに関連する疾患についてもあわせて講義を行う。		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	口腔内の構造と機能について知見を高めることができる。	・教科書 新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ	予習:教科書の該当範囲を読む(1時間程度). 復習:板書内容や教科書を中心にまとめ、ノート整理を行う(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	唾液の機能、舌の機能、歯の解剖生理に焦点を当て、それに関連する疾患についてもあわせて講義を行う。		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	耳の構造と機能について知見を高めることができる。	・教科書 新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ	予習:教科書の該当範囲を読む(1時間程度). 復習:板書内容や教科書を中心にまとめ、ノート整理を行う(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	「聴こえ」の仕組み、「平衡感覚」の仕組みに焦点を当て、それに関連する疾患についてもあわせて講義を行う。		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	目の構造と機能について知見を高めることができる。	・教科書 新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ	予習：教科書の該当範囲を読む(1時間程度). 復習：板書内容や教科書を中心にまとめ、ノート整理を行う(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	ものが見える仕組み、老眼に焦点を当て、それに関連する疾患についてもあわせて講義を行う。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	爪の構造と機能について知見を高めることができる。	・教科書 新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ	予習：教科書の該当範囲を読む(1時間程度). 復習：板書内容や教科書を中心にまとめ、ノート整理を行う(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	爪の解剖生理、爪の変化と予測される疾患に焦点を当てて講義を行う。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	皮膚の構造と機能について知見を高めることができる。	・教科書 新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ	予習：教科書の該当範囲を読む(1時間程度). 復習：板書内容や教科書を中心にまとめ、ノート整理を行う(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	発汗の仕組み、皮膚の汚れに焦点を当て、それに関連する疾患についてもあわせて講義を行う。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	入浴の作用（温熱作用、静水圧作用、浮力作用）について知見を高めることができる。	・教科書 新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ	予習：教科書の該当範囲を読む(1時間程度). 復習：板書内容や教科書を中心にまとめ、ノート整理を行う(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	入浴時の注意点、温度変化による自律神経の作用に焦点を当て、それに関連する疾患についてもあわせて講義を行う。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	口から肛門に至るまでの消化管のルートについて、知見を高めることができる。	・教科書 新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ	予習：教科書の該当範囲を読む(1時間程度). 復習：板書内容や教科書を中心にまとめ、ノート整理を行う(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	口腔・食道・胃の機能に焦点を当てて講義を行う。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	口から肛門に至るまでの消化管のルートについて、知見を高めることができる。	・教科書 新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ	予習：教科書の該当範囲を読む(1時間程度). 復習：板書内容や教科書を中心にまとめ、ノート整理を行う(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	肝臓・膵臓・胆のうの機能に焦点を当てて講義を行う。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	栄養に関して疾患との関連性について、知見を高めることができる。	・教科書 新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ ・副読本 からだのしくみ事典	予習：教科書の該当範囲を読む(1時間程度). 復習：板書内容や教科書を中心にまとめ、ノート整理を行う(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	五大栄養素の役割と治療食に焦点を当てて講義を行う。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	排便に関するシステムについて知見を高めることができる。	・教科書 新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ	予習：教科書の該当範囲を読む(1時間程度). 復習：板書内容や教科書を中心にまとめ、ノート整理を行う(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	便秘や下痢の機序やタイプ、対応に焦点を当てて講義を行う。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	排尿に関するシステムについて知見を高めることができる。	・教科書 新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ	予習：第1回から第13回までの授業内容を振り返り、教科書の該当ページを読み返す(1時間程度). 復習：配布資料や板書内容を中心にまとめ、ノート整理を行う(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	尿失禁の機序やタイプ、対応に焦点を当てて講義を行う。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	前期授業分の内容を総合的に理解することができる。	・教科書 新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ	予習：第1回から第13回までの授業内容を振り返り、教科書の該当ページを読み返す(1時間程度). 復習：配布資料や板書内容を中心にまとめ、ノート整理を行う(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	前期分のまとめを中心に、分かりにくいところに関しては再度講義を行う。		

2026　年度　授業計画(シラバス)　　大阪保健福祉専門学校

学　科	介護福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	認知症の理解	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(2)　時間(単位)
対象学年	1年生	学期及び曜時限	後期 火曜3・4限	教室名	401・402
担当教員	山野　博子	実務経験とその関連資格	実務経験:特別養護老人ホーム・老人保健施設・訪問介護での勤務32年 関連資格:介護福祉士・介護支援専門員		

《授業科目における学習内容》

認知症の本質や認知症の人の心理状態、認知症特有の症状やケア、認知症を取り巻く社会環境などを正しく理解し、認知症の人に対する適切な全人的ケアを提供できるようになる知識を習得できる。

《成績評価の方法と基準》

出席(20%)レポート課題、参加度(10%)、試験(70%)

《使用教材(教科書)及び参考図書》

最新　介護福祉士養成講座13　認知症の理解(中央法規)

《授業外における学習方法》

指定した教科書を事前に読んでおくこと、毎回授業の最初に前回授業内容についての確認をするので、復習しておくこと。

《履修に当たっての留意点》

認知症について基本的な知識と技術を備えることができるよう目標をもって取り組むこと

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	認知症の全体像をとらえる。認知症の特徴を理解できる。	最新・介護福祉士養成講座13 認知症の理解	使用教材2ページから10ページまでを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	認知症とは何か		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳の構造機能と症状の関係を理解できる。	最新・介護福祉士養成講座13 認知症の理解	使用教材12ページから18ページまでを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	脳のしくみ①		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	認知症と区別するべき状態を理解する。老化にともなう脳の変化を知り、認知症との関連を理解できる。	最新・介護福祉士養成講座13 認知症の理解	使用教材18ページから23ページまでを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	脳のしくみ②		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	不安・喪失感を抱く理由を理解する。視点取得という認知機能をフル活用したケアについて理解できる。	最新・介護福祉士養成講座13 認知症の理解	使用教材25ページから28ページまでを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	認知症の人の心理		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	中核症状とは何かを理解する。代表的な中核症状と脳の病変部位との関係を理解できる。	最新・介護福祉士養成講座13 認知症の理解	使用教材32ページから35ページまでを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	中核症状の理解①		

授業の方法		内　　容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	中核症状とは何かを理解する。代表的な中核症状と脳の病変部位との関係を理解できる。	最新・介護福祉士養成講座13 認知症の理解	使用教材32ページから39ページまでを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	中核症状の理解②		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	認知症の生活障害の重要性を理解する。IADL、ADL、参加（家庭内と社会）の障害を理解できる。	最新・介護福祉士養成講座13 認知症の理解	使用教材40ページから45ページまでを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	生活障害の理解		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	BPSDの定義と医学モデルであることを理解できる。	最新・介護福祉士養成講座13 認知症の理解	使用教材47ページから54ページまでを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	BPSDの理解①		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	BPSDのさまざまな背景要因を理解する。個々のBPSDの概要を知り、理解できる。	最新・介護福祉士養成講座13 認知症の理解	使用教材47ページから60ページまでを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	BPSDの理解②		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	認知症の診断要件を理解する。認知機能と重症度の評価法を理解できる。	最新・介護福祉士養成講座13 認知症の理解	使用教材62ページから70ページまでを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	認知症の診断と重症度		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	アルツハイマー型認知症やレビー小体型認知症など認知症の原因疾患の病態や症状を理解できる。	最新・介護福祉士養成講座13 認知症の理解	使用教材72ページから78ページまでを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	認知症の原因疾患と症状・生活障害①		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	前頭側頭型認知症や治療可能な認知症など認知症の原因疾患の病態や症状を理解する。原因疾患により症状や経過も異なることを理解できる。	最新・介護福祉士養成講座13 認知症の理解	使用教材72ページから85ページまでを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	認知症の原因疾患と症状・生活障害②		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	アルツハイマー型認知症治療薬の作用機序や副作用、効果の限界を理解する。BPSDに対して用いられる薬の作用・副作用を理解できる。	最新・介護福祉士養成講座13 認知症の理解	使用教材87ページから91ページまでを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	認知症の治療薬		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	認知症予防とは発症・進行を遅らせることであると学び、さまざまな危険因子・保護因子を理解できる。	最新・介護福祉士養成講座13 認知症の理解	使用教材93ページから96ページまでを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	認知症の予防		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	学んだ内容について理解ができているか再確認できる。	最新・介護福祉士養成講座13 認知症の理解	使用教材2ページから97ページまでの内容を復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	試験対策・まとめ		

2026　年度 授業計画(シラバス)　　大阪保健福祉専門学校

学科	介護福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	発達と老化の理解	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対象学年	1年生	学期及び曜時限	前期　月曜2・3限	教室名	401・402
担当教員	楠田明美	実務経験とその関連資格	看護師(急性・慢性・高齢)と介護福祉士育成教員(教員資格有)の経験を活かし、実習や国家試験に役立つよう講義を行う		

《授業科目における学習内容》

胎生期を経て、人間が誕生し成長・発達していくこと、この連続的な発達は高齢になっても生涯続くことを学ぶ。成長・発達に影響する要因を理解できる。さまざまな発達理論から高齢期を理解し、尊厳の保持や自立支援をふまえた介護実践につなげることができる

《成績評価の方法と基準》

科目終了試験:70%　出席評価点:20%　平常評価点:20%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

『介護福祉士養成講座12　発達と老化の理解』 中央法規

《授業外における学習方法》

講義内で関連する国家試験対策問題を配布、覚えやすいように表にまとめることを促す。次回講義範囲を告知し読み込むよう自己学習を促す。

《履修に当たっての留意点》

国家試験に関連する科目であること。生涯発達することを理解し、老年期の発達課題を高齢者実習に役立ててほしい。また学生たちも成長・発達している存在であること学んでほしい。

授業の方法			内容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	発達の概念を理解できる・生涯発達の段階について学び、理解できる	・テキスト「介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解」・配布資料・パワーポイント	・教科書を見ておくこと
		各コマにおける授業予定	オリエンテーションから成長・発達について考えることができる		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	生涯発達段階について理解できる・環境的要因の重要性を学ぶ成長・発達の原則・法則を学ぶ	・テキスト「介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解」・配布資料・パワーポイント	・成長と発達の違いについてそれぞれの考え方を整理しておくこと　生涯発達段階を7段階をまとめておくこと
		各コマにおける授業予定	遺伝的要因と環境的要因が相互に作用して発達することを理解できる。発達の順序性を理解でき、器官・臓器によって成長・発達のパターンが異なることを理解できる(スキャモンの発達曲線)また発達の節目臨界期・敏感期について理解できる		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	成長・発達に影響する要因について学び、理解できる	・テキスト「介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解」・配布資料・パワーポイント	関連する国家試験問題を復習しておくこと
		各コマにおける授業予定	成長、発達は遺伝的要因・ホルモンの影響・環境的要因があることを理解できる		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	発達理論とはどのようなものであるか学ぶ・諸理論を学び、理解できる	・テキスト「介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解」・配布資料・パワーポイント	関連する国家試験問題を復習しておくこと
		各コマにおける授業予定	さまざまな発達理論があることを理解できる(ルソー・ピアジェ・エリクソン・パステル)		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	各発達理論における発達段階と発達課題の考え方を学び、理解できる	・テキスト「介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解」・配布資料・パワーポイント	諸理論をまとめて表にしておく
		各コマにおける授業予定	各発達理論における発達段階と発達課題の考え方が理解できる		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	身体機能の成長と発達を学び理解できる	・テキスト「介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解」　・配布資料・パワーポイント	青年期までに流行したこと、社会情勢を振り返ってみる
		各コマにおける授業予定	誕生から幼児期までの身体的な成長と発達及び運動機能の発達について理解できる		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	各発達理論における発達段階と発達課題の考え方を学び理解できる	・テキスト「介護福祉士養成講座13 発達と老化の理解」　・配布資料・パワーポイント	関連する国家試験問題を復習しておくこと
		各コマにおける授業予定	各発達理論における発達段階と発達課題の考え方が理解できる・青年期までの歴史年表を作成する(グループワーク)		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	発達に伴う特徴的な疾病や障がいについて学び理解できる	・テキスト「介護福祉士養成講座14 発達と老化の理解」　・配布資料・パワーポイント	関連する国家試験問題を復習しておくこと
		各コマにおける授業予定	発達に伴う特徴的な疾病や障がいについて理解ができる		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	心理的機能の発達と社会的機能の発達を学び理解できる	・テキスト「介護福祉士養成講座15 発達と老化の理解」　・配布資料・パワーポイント	ピアジェの認知発達理論に沿って各段階の特長をまとめる
		各コマにおける授業予定	ピアジェの認知発達理論・言語発達過程について理解できる　各段階での社会性の発達が理解できる		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	老年期の定義を学ぶ・老化とはを学び理解できる	・テキスト「介護福祉士養成講座16 発達と老化の理解」　・配布資料・パワーポイント	関連する国家試験問題を復習しておくこと
		各コマにおける授業予定	老年期の定義の必要性、生物ー心理ー社会モデルから理解することの意義が理解できる・老化・加齢の用語の定義が理解できる・老化学説の種類と、その内容を理解できる		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	老年期の発達課題を学び理解できる	・テキスト「介護福祉士養成講座17 発達と老化の理解」　・配布資料・パワーポイント	老年期の発達理論を表にまとめる　関連する国家試験問題を復習しておくこと
		各コマにおける授業予定	様々な発達理論における老年期を理解できる・プロダクティブエイジングについて理解できる		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	人格の尊厳と老いの価値、喪失体験について学び理解できる	・テキスト「介護福祉士養成講座18 発達と老化の理解」　・配布資料・パワーポイント	関連する国家試験問題を復習しておくこと
		各コマにおける授業予定	人格権と尊厳喪失体験とはを理解できる		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	老年期をめぐる今と課題について学び理解できる	・テキスト「介護福祉士養成講座19 発達と老化の理解」　・配布資料・パワーポイント	関連する国家試験問題を復習しておくこと・高齢者が歩んできた時代表を見ておく
		各コマにおける授業予定	日本の高齢化と在宅、施設の高齢者の現状がイメージできる		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者が歩んできた時代背景の概要を学び理解できる	・テキスト「介護福祉士養成講座20 発達と老化の理解」　・配布資料・パワーポイント	関連する国家試験問題を復習しておくこと
		各コマにおける授業予定	高齢者が歩んできた時代をイメージできる		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	生涯学習をキーワードにまとめから介護福祉士として出会う高齢者について学び理解できる	・テキスト「介護福祉士養成講座21 発達と老化の理解」　・配布資料・パワーポイント	今まで学んできたことのまとめ・関連する国家試験問題を実施しておく
		各コマにおける授業予定	まとめから介護福祉士として出会う高齢者の理解を深める		

2026　年度 授業計画(シラバス)　　大阪保健福祉専門学校

学科	介護福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	障害の理解	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対象学年	1年生	学期及び曜時限	後期　水曜1・2限	教室名	401・402
担当教員	松田　若那	実務経験とその関連資格	社会福祉士を取得後、病院で医療ソーシャルワーカーとして勤務。その後、相談支援専門員として児童の計画相談業務に従事。		

《授業科目における学習内容》

障害の概念、障害福祉の基本理念、障害者福祉制度を学ぶことで、介護福祉職が障害のある人と向き合うための基礎的知識を身につける。また、障害福祉を取り巻く最新の動向を理解し、障害のある人の自立に向けた生活支援の視点について学ぶ。

《成績評価の方法と基準》

定期試験70%、授業態度10%、出席20%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

最新　介護福祉士養成講座14　障害の理解　(中央法規出版)

《授業外における学習方法》

テキストやレジュメに出てきた重要な語句、説明について各自で考え、工夫して覚えるようにする。
とくに、他の科目にも出てくる語句は重要なため、とくに意識して覚えるようにする。

《履修に当たっての留意点》

介護福祉士として関わる対象は高齢者だけでないことを認識し、障害の理解をする。ひとつの科目としてみるのではなく、他の科目と関連させながら学習し、幅広い知識や関心を深めていくようにし、イメージする力をつけてほしい。

授業の方法			内容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	障害とは何かを考えることが出来る。	教科書 配布資料 Ipad	教科書の当該箇所を一読してくる
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション。障害とは何かを考える。		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	障害のある人の心理について説明することができるようになる。	教科書 配布資料 Ipad	教科書の当該箇所を一読してくる
		各コマにおける授業予定	障害のある人の心理について理解する。		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	視覚障害ついて説明することができるようになる。	教科書 配布資料 Ipad	教科書の当該箇所を一読してくる
		各コマにおける授業予定	視覚障害の特性について理解する。		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	肢体不自由(運動機能障害)の特性や基礎知識について理解し、説明できるようになる。	教科書 配布資料 Ipad	教科書の当該箇所を一読してくる
		各コマにおける授業予定	肢体不自由(運動機能障害)の特性や基礎知識について理解する。		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	聴覚障害・言語障害の特性について説明できるようになる。	教科書 配布資料 Ipad	教科書の当該箇所を一読してくる
		各コマにおける授業予定	聴覚障害・言語障害の特性について理解する。		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	知的障害ついて説明することができるようになる。	教科書 配布資料 Ipad	教科書の当該箇所を一読してくる
		各コマにおける授業予定	知的障害の特性について理解する。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神障害の特性について説明できるようになる。	教科書 配布資料 Ipad	教科書の当該箇所を一読してくる
		各コマにおける授業予定	精神障害の特性について理解する。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	高次脳機能障害ついて説明することができるようになる。	教科書 配布資料 Ipad	教科書の当該箇所を一読してくる
		各コマにおける授業予定	高次脳機能の特性について理解する。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	発達障害の特性について説明できるようになる。	教科書 配布資料 Ipad	教科書の当該箇所を一読してくる
		各コマにおける授業予定	発達障害の特性について理解する。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	難病の定義や、基礎的知識を理解し、説明できるようになる。	教科書 配布資料 Ipad	教科書の当該箇所を一読してくる
		各コマにおける授業予定	難病の定義や、基礎的知識を理解する。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	重症心身障害の特性について説明できるようになる。	教科書 配布資料	教科書の当該箇所を一読してくる
		各コマにおける授業予定	重症心身障害の特性について理解する。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	障害者福祉制度と介護保険制度の違いについて理解し、当該科目における理解を深められる。	教科書 配布資料 Ipad	教科書の当該箇所を一読してくる
		各コマにおける授業予定	障害者福祉制度と介護保険制度の違いについて学び、当該科目における理解を深める。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	チープアプローチについて説明できるようになる。	教科書 配布資料 Ipad	教科書の当該箇所を一読してくる
		各コマにおける授業予定	チームアプローチのあり方や他職種連携について学ぶ		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	家族への支援方法について説明できるようになる。	教科書 配布資料 Ipad	教科書の当該箇所を一読してくる
		各コマにおける授業予定	家族への支援方法について学ぶ。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	各授業内容の整理と振り返り。	教科書 配布資料 Ipad	教科書の当該箇所を一読してくる
		各コマにおける授業予定	各項目を振り返り、理解を深める。		

2026　年度　授業計画(シラバス)　　大阪保健福祉専門学校

学　科	介護福祉科　Ⅰ部	科目区分	専門分野	授業の方法	講義演習
科目名	こころとからだのしくみⅠ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(2)　時間(単位)
対象学年	1年生	学期及び曜時限	後期　火曜1.2限	教室名	501,502教室
担当教員	武部　奈緒子	実務経験とその関連資格	介護福祉士、看護師、保健師の国家資格に加え、養護教諭二種免許を保有。特別養護老人ホームや病院において実践経験を積み、近年は高等学校、専門学校、短期大学の講師を務める。		

《授業科目における学習内容》

からだの基本的なしくみの理解、こころがからだに及ぼす影響について学ぶ。また、生活の障害はどのようなメカニズムで生じるのか、それにどのように対応するのかを学び、学生が根拠を持って生活援助の妥当性について説明することができる。

《成績評価の方法と基準》

科目修了試験:70%　出席評価点:20%　平常評価点:10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

教科書:最新介護福祉士養成講座　こころとからだのしくみ(中央法規)

《授業外における学習方法》

授業で学んだ内容をノート等にまとめ、生活援助技術などの他科目と関連づけて学習できるよう復習しておく。

《履修に当たっての留意点》

精神的・身体的・社会的な健康を理解したうえで、利用者の健康状態を判断する基準、そして介護福祉士として利用者の生活の困難さを測る基準となる知識をしっかりと理解していきましょう。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	人体の構造・機能について振り返りを行い、知識として身につけることができる	・教科書 最新介護福祉士養成講座 こころとからだのしくみ(中央法規) ・配布資料	・前期配布プリントを事前に復習しておくこと
		各コマにおける授業予定	1年前期の講義振り返り①		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	人体の構造・機能について振り返りを行い、知識として身につけることができる	・教科書 最新介護福祉士養成講座 こころとからだのしくみ(中央法規) ・配布資料	・前期配布プリントを事前に復習しておくこと
		各コマにおける授業予定	1年前期の講義振り返り②		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	摂食・嚥下に関わる解剖生理しを理解し、人間に必要不可欠な栄養素とそのはたらきをを知ることができる	・教科書 最新介護福祉士養成講座 こころとからだのしくみ(中央法規) ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	第5章　食事に関連したこころとからだのしくみ 第1節　食事のしくみ		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	加齢や疾病による心身の機能低下が食事にどのような影響を及ばすか理解することができる	・教科書 最新介護福祉士養成講座 こころとからだのしくみ(中央法規) ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	第5章　食事に関連したこころとからだのしくみ 第2節　心身の機能低下が移動に及ぼす影響		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	食事での必要な観察事項について理解することができる　　食事における緊急性を伴う異常について学び、医療職との連携の重要性について理解することができる	・教科書 最新介護福祉士養成講座 こころとからだのしくみ(中央法規) ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	第5章　食事に関連したこころとからだのしくみ 第3節　変化の気づきと対応		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	必要な情報を抜粋、アセスメントし、具体的援助内容を発表することができる	・教科書 最新介護福祉士養成講座 こころとからだのしくみ（中央法規） ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	第5章　食事に関連したこころとからだのしくみ 事例問題演習（グループワーク）		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	排泄に必要な行為の理解、排便と排泄のしくみと正常について理解することができる	・教科書 最新介護福祉士養成講座 こころとからだのしくみ（中央法規） ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	第7章　排泄に関連したこころとからだのしくみ 第1節　排泄のしくみ		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	加齢や疾病による心身の機能低下が排泄にどのような影響を及ぼすか理解することができる□	・教科書 最新介護福祉士養成講座 こころとからだのしくみ（中央法規） ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	第7章　排泄に関連したこころとからだのしくみ 第2節　心身機能の低下が排泄に及ぼす影響		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	老化に伴う機能低下について理解することができる 観察ポイントや観察方法、記録、他者との連携の重要性を学ぶことができる	・教科書 最新介護福祉士養成講座 こころとからだのしくみ（中央法規） ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	第7章　排泄に関連したこころとからだのしくみ 第3節　変化の気づきと対応		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	必要な情報を抜粋、アセスメントし、具体的援助内容を発表することができる	・教科書 最新介護福祉士養成講座 こころとからだのしくみ（中央法規） ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	第7章　排泄に関連したこころとからだのしくみ 事例問題（グループワーク）		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	睡眠を引き起こす仕組み、良質な睡眠のための環境条件や生活習慣について学ぶ	・教科書 最新介護福祉士養成講座 こころとからだのしくみ（中央法規） ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	第8章　休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ 第1節　休息・睡眠のしくみ		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	加齢が睡眠に及ぼす影響を理解し、睡眠障害の種類と、それぞれの特徴について学ぶことができる	・教科書 最新介護福祉士養成講座 こころとからだのしくみ（中央法規） ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	第8章　休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ 第2節　心身の機能低下が睡眠に及ぼす影響		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	睡眠状態を確認する方法について学び、問題がある場合の対応方法を知ることができる	・教科書 最新介護福祉士養成講座 こころとからだのしくみ（中央法規） ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	第8章　休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ 第3節　変化の気づきと対応		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	必要な情報を抜粋、アセスメントし、具体的援助内容を発表することができる	・教科書 最新介護福祉士養成講座 こころとからだのしくみ（中央法規） ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	第8章　休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ 事例問題（グループワーク）		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	食事、排泄、休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみについて振り返りを行い、知識を深めることができる	・教科書 最新介護福祉士養成講座 こころとからだのしくみ（中央法規） ・配布資料	・後期授業内容の振り返りを行う事前に行っておくこと　・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	1年後期授業まとめ		

2026　年度　授業計画(シラバス)　　大阪保健福祉専門学校

学　科	介護福祉科	科目区分	基礎分野	授業の方法	講義
科目名	健康科学講座	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(2)　時間(単位)
対象学年	2年生	学期及び曜時限	後期　水曜1・2限	教室名	502・601・3F
担当教員	加藤　明英	実務経験とその関連資格	■実務経験 株式会社ティップネスでパーソナルトレーナー活動9年、大学での非常勤講師3年 ■資格 (公財)日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー、健康運動指導士		

《授業科目における学習内容》

高齢者に対しての運動指導に関する理解、必要な知識、技術について自ら体験することで学習する。

《成績評価の方法と基準》

試験:70%　出席率:20%　平常評価点:10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

介護予防運動トレーナー養成テキスト

《授業外における学習方法》

テキストを参考に復習を行う。また、授業で得た知識を実際に施設実習での活動に関連付けていく。

《履修に当たっての留意点》

介護の現場において高齢者へ運動指導することは必須になってきています。
今回の講義・実技を通して実際に自ら体験し、適切に高齢者への運動指導が行えるようイメージしながら学習しましょう。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	高齢者の身体特徴を理解し説明できる。	・教科書 ・配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	介護予防の基礎についての講義 高齢者の身体について理解する。		
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	高齢者筋力向上トレーニングの必要性、効果を説明できる。	・教科書 ・配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	高齢者における筋力トレーニングについての講義1 高齢者筋力向上トレーニングの必要性、効果、身体への影響を理解する。		
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	高齢者の身体特徴を考慮したトレーニングの負荷設定の方法について説明できる。	・教科書 ・配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	高齢者における筋力トレーニングについての講義2 筋線維の収縮パターンやトレーニングの運動強度、回数、頻度等の設定方法を理解する。		
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	我が国の高齢化の現状について説明できる。 介護予防ケアマネジメントについてのポイントを説明できる	・教科書 ・配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	介護予防マネジメントについての講義 高齢化の現状、介護予防の基本的な考え方について理解する。 介護予防ケアマネジメントの4つのサポートについて理解、整理する。		
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	認知症の概念、症状について説明できる。 認知症疾患に適したアプローチ方法を理解し、説明できる。	・教科書 ・配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	認知症予防についての講義 認知症の概念、主症状、随伴症状について理解する。 認知症疾患へのアプローチについて理解する。		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	高齢者の失禁をめぐる問題や尿失禁の種類、対策について説明できる。	・教科書 ・配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	失禁予防についての講義 尿失禁の種類、対策とについて理解する。		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	転倒の定義、発生要因、リスク因子について理解し説明できる。	・教科書 ・配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	転倒予防についての講義 転倒の要因、リスク、予防プログラム作成について理解する。		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	五大栄養素など栄養学の基礎、高齢期の食事の問題点、改善方法を理解し説明できる。	・教科書 ・配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	低栄養についての講義		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	行動科学の基礎、法則を説明できる。 セルフエフィカシーの重要性を理解し説明できる。	・教科書 ・配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	行動科学についての講義 行動科学の基礎、法則について理解する。 セルフエフィカシーの重要性、高め方を理解する。		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	行動科学の基礎、法則を説明できる。 セルフエフィカシーの重要性を理解し説明できる。	・教科書 ・配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	行動科学についての講義 行動科学の基礎、法則について理解する。 セルフエフィカシーの重要性、高め方を理解する。		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	資格試験合格	・教科書 ・配布資料	教科書と配布資料を見直す
		各コマにおける授業予定	資格試験(介護運動予防トレーナー)		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	猫背における大胸筋・小胸筋の状態（短縮）を理解し、解剖学に基づいたストレッチを実施できる。	・配布資料	配布資料を見直す
		各コマにおける授業予定	大胸筋・小胸筋の起始・停止・作用を学習する 。猫背姿勢における胸部筋の短縮を確認し、改善のためのストレッチ法を習得する 。		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	背部の筋肉の機能低下（弱化）が姿勢に与える影響を理解し、適切な筋力強化法を実践できる。	・配布資料	配布資料を見直す
		各コマにおける授業予定	僧帽筋（中部・下部）・菱形筋・脊柱起立筋の構造を整理する 。肩甲骨を正しい位置に保つための筋力トレーニング法を学ぶ 。		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	骨盤の傾きに関与する腸腰筋・大腿直筋の構造を理解し、姿勢不良との関連性を説明できる。	・配布資料	配布資料を見直す
		各コマにおける授業予定	腸腰筋・大腿直筋の起始・停止・作用を学習する 。これらの筋肉の緊張が骨盤の前傾等にどう影響するかを確認する 。		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	骨盤後面の筋肉の役割を理解し、全8筋の状態（短縮・弱化）と改善法を論理的に判別できる。	・配布資料	配布資料を見直す
		各コマにおける授業予定	大殿筋・ハムストリングスの解剖を学ぶ 。筆記試験に向け、全筋肉の「状態（短い/弱い）」と「処方（ストレッチ/強化）」を総復習する 。		

2026　年度 授業計画(シラバス)　　大阪保健福祉専門学校

学科	介護福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	人間の尊厳と自立	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対象学年	1年生	学期及び曜時限	前期 火曜1・2限	教室名	401・402
担当教員	西本 麻衣	実務経験とその関連資格	福祉・医療領域にて、障がい者とその家族や関係者の支援現場、相談業務の経験を経て、現在障害がい児童支援事業に従事。臨床心理士、公認心理師、保育士資格		

《授業科目における学習内容》

「人間の尊厳と人権・福祉理念」は人権思想の潮流や関連法律を通じて、「自他の理解とコミュニケーション」は心理学を通じて、「チームマネジメント」は現場をイメージすることで学び、尊厳とは何か、自立とはどういうことかを知ることができます。

《成績評価の方法と基準》

科目終了試験 70% 出席評価点 20% 平常評価点 10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

教科書、参考資料(プリント)

《授業外における学習方法》

他者理解と自己理解は同時に成立します。私らしく生活することの自由と責任は人権として、他者の生き方や個性を大切にすることは尊厳として、日々の生活の中に指標としてある人権意識に気がつくことから始めましょう。

《履修に当たっての留意点》

歴史と法律、心理学、実践(現場)と幅広い内容を授業で取り上げます。板書するだけでなく、よく聞きよく考えながら学ぶ姿勢が大切です。

授業の方法			内容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	私らしさ、障がい、人間の尊厳について知り、考察することができる	テキスト	日常生活にある社会的障壁を見つける
		各コマにおける授業予定	「障害基本法」を学び、共生社会の実現に必要な考え方を知る		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	人権思想の歴史を学び、人権の今とこれからを考える事ができる	テキスト	テキスト該当ページを読む
		各コマにおける授業予定	自由権と社会権を学び、人権思想の潮流を俯瞰する		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	人権思想の諸規定において日本と世界の動向を知ることができる	テキスト	仏「人権宣言」 米「独立宣言」について映画やドラマで知る
		各コマにおける授業予定	日本国憲法12条、13条、25条、介護保険法、障害者総合支援法を学ぶ		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会福祉領域における人権思想の変遷を知り、考えることができる	テキスト 参考プリント	テキスト該当ページを読む
		各コマにおける授業予定	社会保障の始まりであるエリザベス救貧法から優生思想の政策化を学ぶ		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会福祉領域における人権思想の変遷を知り、考えることができる2	テキスト	ハンセン病について調べる
		各コマにおける授業予定	社会保障の始まりであるエリザベス救貧法から優生思想の政策化を学ぶ2		

授業の方法		内　　容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	世界人権宣言以降現代における人権問題について考察できるようになる	テキスト	マイノリティーについて調べる
		各コマにおける授業予定	子ども、貧困、マイノリティーにまつわる社会情勢と人権問題について学ぶ		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	権利擁護とは何かを学び、考える事ができる	テキスト	テキスト該当ページを読む
		各コマにおける授業予定	社会サービス、制度によって保障されている権利について学ぶ		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	権利侵害が生じる背景と権利擁護について身近な事例で考え、理解を深めることができる	テキスト	身近にある権利侵害について考える
		各コマにおける授業予定	権利侵害が生じる背景を多面的に捉え、権利擁護の視点を深める		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	「自立」とはどのような状態なのかを考え、自分の考えを持てるようになる	テキスト	「自立」という言葉のイメージと自分にとっての自立を考える
		各コマにおける授業予定	「自立」を多面的にとらえる。精神的、身体的、経済的自立について		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護を必要とする人の「自立」を考える。支援のあり方について尊厳の視点から考えられるようになる	テキスト	障がいのある方、高齢者にとっての自立（意思決定）について考える
		各コマにおける授業予定	尊厳を守る為の自立支援について、自立、依存、意思決定をテーマに学ぶ		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	ICIDHからICFへの変遷を理解できるようになる	テキスト	テキスト該当ページ（図）を読む
		各コマにおける授業予定	尊厳を守る為の自立支援について、自立を俯瞰的な視点で捉え考える		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	自他の理解と関係形成について知識を身につけることができる	テキスト	テキスト該当ページを読む
		各コマにおける授業予定	自我、自意識、他者への認識についての諸理論を学ぶ		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	発達心理学から捉える自分、他者、関係形成について学び、理論を理解できるようになる	テキスト	ノンバーバルコミュニケーション、カウンセリングスキルを1つ実践してみる
		各コマにおける授業予定	認知発達、ライフサイクル理論を学び、自他の理解、関係形成の発達やその不具合について考える		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会心理学から捉える自分、他者、関係形成を学び、人間関係について考えられる視点を持つことができる	テキスト	他者の行動アセスメントを実践してみる
		各コマにおける授業予定	対人認知や人間関係について代表的な研究とそこから導き出された理論を学び、考える視点を持つ		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	コミュニケーションと特性や構造、ケースワークを通じ、自身のコミュニケーションについて知ることができる	テキスト	自身のコミュニケーションパターンを知り、スキルとしてのコミュニケーションを実施してみる
		各コマにおける授業予定	コミュニケーションについて概念的な理解を深め、事例検討を通じて実践的に感じ考える		

2026　年度 授業計画(シラバス)　　大阪保健福祉専門学校

学科	介護福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	社会の理解Ⅰ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対象学年	1年生	学期及び曜時限	後期　木曜1・2限	教室名	401・402
担当教員	武田　真澄	実務経験とその関連資格	特別養護老人ホームの介護職員、生活相談員、施設ケアマネを経験し医療法人と社会福祉協議会の地域包括支援センターで主任ケアマネジャーとして勤務。現在は居宅介護支援事業所の管理者でケアマネ業務を行っている。社会福祉士・主任介護支援専門員資格		

《授業科目における学習内容》

介護福祉士として必要な法制度、特に社会保障のしくみ、介護保険制度を理解できるようになる。 また、地域共生社会の考え方や地域包括ケアの仕組みの理解につなげていく。

《成績評価の方法と基準》

科目修了試験:70%　出席評価点:20%　平常評価点10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

社会と制度の理解　介護福祉士国家試験過去問

《授業外における学習方法》

授業で習った内容の復習。ニュースや新聞等で福祉施策、高齢者、障害者制度の改正や動向に目を向ける。

《履修に当たっての留意点》

介護福祉士として必要な諸制度を実際の現場で応用できるようわかりやすく伝えます。また、覚えなければならない制度の仕組みについてポイントしっかり押さえていきましょう。

授業の方法			内容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	学習方法や授業の内容、流れについて理解し国家試験にむけて重要ポイントを学ぶことができる。	教科書	自分が生まれてから死ぬまでの必要な社会保障制度についてまとめてみる。
		各コマにおける授業予定	社会と制度の理解についての説明(今後の授業内容)・自己紹介等		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	生活と仕事にかかわる基本、家族についての定義を説明できる。	教科書	自らのライフサイクルをまとめ、ジェノグラムを作成する。
		各コマにおける授業予定	生活の構造～家族とは		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	地域社会の意味、集団、組織、市町村合併の歴史を理解する。　地域共生社会の実現に向けた施策等について説明することができる。 育児・介護休業法、社会福祉と社会保障の基本を学び、理解することができる。	教科書	自分が住む地域の居場所、サロンなどどのようなものがあるか調べる。
		各コマにおける授業予定	・地域社会と個人～人と社会 ・地域包括ケアシステムの構築 ・地域共生社会の実現に向けた制度や施策		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会保障の定義、その目的や機能について学ぶ。 社会保障制度にはどのような制度があるのか理解できる。	教科書 配布プリント	自分や家族が現在どのような社会保障制度を利用しているのか調べておく。
		各コマにおける授業予定	社会保障の基本的な考え方		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本国憲法のなかの社会保障に関する条文を理解する。 第二次世界大戦後から現代にいたる間の社会保障の歴史を学び、理解することができる。	教科書 配布プリント	年金制度や医療保険制度、社会福祉制度(児童福祉、障害者福祉、高齢者福祉)といった社会保障の各制度がどのように改正され変化してきたか整理しておく。
		各コマにおける授業予定	日本の社会保障制度の発達		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会保障の全体像を理解し、わが国の社会保険の5つの制度について学ぶことができる。	教科書 配布プリント	社会保障制度が自分たちの生活や人生においてどのような影響があるか考えてみる。年金制度がなかったらどうなるかなど。
		各コマにおける授業予定	日本の社会保障制度の仕組み		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会保障の給付と負担の関係について理解できる。	教科書 配布プリント	人口減少社会における社会保障制度の課題や対応方法について考えておく。
		各コマにおける授業予定	現代社会と社会保障制度		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会保険と社会扶助について繰り返し学び、その種類と内容について答えることができる。	教科書 配布プリント	家族や自分の加入している医療保険について調べておく。
		各コマにおける授業予定	社会保障制度の確認		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護保険創設の背景について理解できる。	教科書 配布プリント	自分の自宅がある市町村の人口、高齢化率について調べる。
		各コマにおける授業予定	介護保険制度の目的		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護保険申請からサービス利用までの流れが理解できる。	教科書 配布プリント	自分の家族が介護が必要になった時の対応や制度について考えてみる。
		各コマにおける授業予定	介護保険の仕組み		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護保険サービス、地域支援事業の種類と内容が理解できる。	教科書 配布プリント	居住する地域にどういうサービス事業所がどのくらいあるか調べる。
		各コマにおける授業予定	介護保険の仕組み		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	国や都道府県、市町村の役割が理解できる。	教科書 配布プリント	自分が住むまちの介護保険事業計画について調べる。
		各コマにおける授業予定	介護保険制度にかかわる組織とその役割		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護の実践に関わる専門職の役割について理解できる。	教科書 配布プリント	自分が目指している介護福祉士の姿を想像し書き出してみる。
		各コマにおける授業予定	介護保険制度による専門職の役割～介護保険制度の動向		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護保険制度の改正のポイントやこれからの介護保険制度の課題について理解できる。	教科書 配布プリント	プリントを復習し理解できるまでテキストで振り返りを行う。
		各コマにおける授業予定	介護保険制度の確認		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会保障や介護保険制度について振り返りを行い各制度についてきちんと内容を答えることができる。	教科書 配布プリント	重要ポイントを整理し授業内容を振り返る。
		各コマにおける授業予定	今まで履修した内容の確認。		

2026　年度 授業計画(シラバス)　　大阪保健福祉専門学校

学科	介護福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	介護の基本Ⅰ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(2)　時間(単位)
対象学年	1年生	学期及び曜時限	後期　水曜1・2限	教室名	401・402
担当教員	坂本　愛子	実務経験とその関連資格	特別養護老人ホームにて介護福祉士として勤務。		

《授業科目における学習内容》

利用者理解及び自立に向けた介護実践に関わる概念や考え方を理解する。介護の専門性の理解を深め、介護を「科学する力」を養う。

《成績評価の方法と基準》

科目修了試験:70%　出席評価点:20%　平常評価点10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

教科書:中央法規　最新・介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅰ

《授業外における学習方法》

授業で行った内容を、教科書や使用した授業プリントなどを用いて復習を行う。
特に実習前には、授業で得た知識を施設実習で活かすことのできるよう、関連付けておく。実習後も振り返りを行い、実習での学びを結びつける。

《履修に当たっての留意点》

介護の基本について必要な知識を学びます。介護の専門職としての姿勢や考え方を理解し、介護福祉士としての基礎を身につけてい きましょう。

授業の方法		内容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	前期試験からの振り返り、後期授業のオリエンテーションを通じ、苦手分野の把握をすることができる	・教科書　中央法規　最新・介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅰ ・配布資料	・前期のレジュメ等の持参確認。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	前期試験の解答から、苦手な問題を中心に復習を行う		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護に携わる人がもつべき職業倫理について理解できる	・教科書　中央法規　最新・介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅰ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	介護福祉士の倫理、「介護の倫理」に実践「尊厳ある介護実践」		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護に携わる人がもつべき職業倫理について理解できる	・教科書　中央法規　最新・介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅰ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	介護福祉士の倫理、「介護の倫理」に実践「尊厳ある介護実践」		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	普遍的な倫理判断の視点を学び、介護の場面でどう生かすことができるか考察ができる	・教科書　中央法規　最新・介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅰ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	倫理的判断が必要な場面における介護福祉士の対応		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	普遍的な倫理判断の視点を学び、介護の場面でどう生かすことができるか考察ができる	・教科書　中央法規　最新・介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅰ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	倫理的判断が必要な場面における介護福祉士の対応		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本介護福祉士会倫理綱領、介護福祉の専門性を理解できる	・教科書　中央法規　最新・介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅰ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	日本介護福祉士会倫理綱領について		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本介護福祉士会倫理綱領、介護福祉の専門性を理解できる	・教科書　中央法規　最新・介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅰ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	日本介護福祉士会倫理綱領について		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護福祉士に求められる専門職としての態度を形成できる	・教科書　中央法規　最新・介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅰ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	日本介護福祉士会倫理綱領について		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	自立支援の具体的な考え方を理解できる	・教科書　中央法規　最新・介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅰ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	自立支援、自己決定権、エンパワメントについて		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	自立支援の具体的な考え方を理解できる	・教科書　中央法規　最新・介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅰ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	自立支援、自己決定権、エンパワメントについて		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	ICFにおける生活機能と快苦因子の相互作用について理解できる	・教科書　中央法規　最新・介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅰ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	ICF、ICIDHについて、利用者の持つ強さ(ストレングス)について		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	自立支援とリハビリテーションの基本的な考え方について理解できる	・教科書　中央法規　最新・介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅰ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	リハビリテーションの概念、リハビリテーションの実際		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	自立支援と介護予防の基本的な考え方を理解できる	・教科書　中央法規　最新・介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅰ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	介護予防の目的と考え方		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	地域包括ケアシステムと介護予防について再認識し理解できている	・教科書　中央法規　最新・介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅰ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	自助、互助、共助、公助の重なり合い		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	後期の学びにより、介護の全体像についての理解が深まり、まとめることができている。	・教科書　中央法規　最新・介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅰ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	試験に向けて、全15回の振り返りを行う。		

2026　年度 授業計画(シラバス)　　大阪保健福祉専門学校

学科	介護福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	コミュニケーション技術(理論)	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対象学年	1年生	学期及び曜時限	後期　金曜1・2限	教室名	401・402
担当教員	森野　祐希	実務経験とその関連資格	介護福祉士として5年介護老人保健施設に勤務後、R5年に専任教員へ。		

《授業科目における学習内容》

利用者・家族との関係作りのための対応や声かけなど実践的なコミュニケーション能力を習得する。援助場面でのコミュニケーションの基盤となる共感や重要等の態度、バイステックの7原則等の概念について理解を深める。利用者の特性に応じたコミュニケーションの具体的な対応や留意点を理解することが出来る。チーム内の記録、報告、カンファレンスにおける留意点や効果的な方法を知ることが出来る。

《成績評価の方法と基準》

科目終了試験:70%、出席評価点:20%、平常評価点10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

教科書中央法規「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術　第2版

《授業外における学習方法》

復習として、普段から人と関わる際には授業で得た知識を実践し、体験を関連付けしておく。また、施設実習においても授業で得た知識や日頃の体験を活かし、さらに理解を深める。

《履修に当たっての留意点》

利用者やその家族との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、施設実習での様々な利用者様との関わりの中で実践力を身につける。

授業の方法			内容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	話を聴く技法、受容と共感の大切さを理解することが出来る。	教科書中央法規「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術、配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	傾聴のための技法、受容と共感の大切さを理解する。		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	傾聴・受容・共感についての理解を深めることが出来る。	教科書中央法規「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術、配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	話を聴く態度、相づち、質問の技法を実践する。		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	利用者の納得と同意を得る技法について理解することが出来る。	教科書中央法規「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術、配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	利用者とのコミュニケーションにおける「距離」とは何かを理解する。		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本を理解することが出来る。	教科書中央法規「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術、配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	言語コミュニケーションの機能を理解する。言葉以外を使った非言語・準言語コミュニケーションの役割を理解する。		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	対象者の特性に応じたコミュニケーションを理解することが出来る。	教科書中央法規「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術、配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	これまで学んだことの小テスト実施。さまざまな障害がもたらす、コミュニケーション障害を理解する。		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	対象者の特性に応じたコミュニケーションの理解を深めることが出来る。	教科書中央法規「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術、配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	さまざまな障害がもたらす、コミュニケーション障害への理解を深める。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	利用者に応じたコミュニケーションを理解することが出来る。	教科書中央法規「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術、配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	利用者に応じたコミュニケーションを実践し、理解する。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	利用者に応じたコミュニケーションの理解を深めることが出来る。	教科書中央法規「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術、配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	利用者に応じたコミュニケーションを実践し、理解を深める。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	家族とのコミュニケーションの重要性を理解することが出来る。	教科書中央法規「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術、配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	家族の気持ちの理解、家族との信頼関係の構築について理解する。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	家族への相談・助言・調整の技法について理解することが出来る。	教科書中央法規「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術、配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	利用者や家族の意向を円滑に調整するためのコミュニケーション手順を理解する。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	チームケア、他職種連携のためのコミュニケーションの意義・目的を理解することが出来る。	教科書中央法規「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術、配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	報告・連絡・相談の意義・留意点を理解する。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	チームケア、他職種連携のためのコミュニケーション技術の理解を深めることが出来る。	教科書中央法規「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術、配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	報告・連絡・相談の意義・留意点の理解を深めることが出来る。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	記録の意義・目的について理解する	教科書中央法規「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術、配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	記録の書き方・方法について理解する。記録の活用がケアの質の向上につながることを理解する。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護職が行う会議の意義や目的、種類、役割を理解する。	教科書中央法規「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術、配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	チーム内で情報を共有できるようにするための説明の技術びついて理解する。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	コミュニケーションのあり方や重要性について考えをまとめることが出来る。	教科書中央法規「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術、配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	試験に向けて全15回の振り返りを実施する。		

2026　年度 授業計画(シラバス)　　大阪保健福祉専門学校

学科	介護福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	介護の基本Ⅱ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対象学年	1年生	学期及び曜時限	前期　木曜1・2限	教室名	401・402
担当教員	北川　千尋	実務経験とその関連資格	特別養護老人ホーム、有料老人ホームなどに勤務した。		

《授業科目における学習内容》

「介護を必要とする人の生活を支援する」という観点から、介護を受けて生活する人およびその生活について学ぶことができる。介護福祉の基本となる理念や地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護を受けて生活する方のフォーマルおよびインフォーマルな支援や、地域連携について学びを深めることができる。

《成績評価の方法と基準》

科目修了試験:70%　出席評価点:20%　平常評価点10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

教科書:中央法規　介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅱ

《授業外における学習方法》

授業で行った内容を、教科書や使用した授業プリントなどを用いて復習を行う。また、特に実習前には、授業で得た知識を施設実習で活かすことのできるよう、関連付けておく。

《履修に当たっての留意点》

介護の基本という科目名の通り、介護福祉士を目指す上での理念や役割などについての理解が必要です。専門職としての能力を養うため、理解できていない状態で終えないよう、また見逃さないよう受講することを期待します。

授業の方法			内容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	生活においての構成や要素を理解することができる。	・教科書　中央法規　介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅱ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	「生活」とは何かを示し、どのような特性をもっているのかを学び、「生活」についての基本を理解する。		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護福祉士を取り巻く状況について理解することができる。	・教科書　中央法規　介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅱ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	介護福祉士の誕生経緯や介護福祉士制度、また、社会福祉士及び介護福祉士法について理解する。		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会福祉士及び介護福祉士法についての理解を深めることができる。	・教科書　中央法規　介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅱ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	介護福祉士が守るべき義務規定の意味を理解する。		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護福祉を必要とする人たちの暮らしを理解することができる。	・教科書　中央法規　介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅱ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	介護福祉を必要とする人たちの多様性を理解し、介護福祉職の関わる高齢者・障害者の事例を学ぶ。		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	生活ニーズや生活のしづらさ、その支援について理解することができる。	・教科書　中央法規　介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅱ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	私たち自身の生活を見直すことで、その人らしさや生活ニーズの多様性、生活のしづらさの理解や支援について理解する。		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護における専門職能団体の活動について理解することができる。	・教科書　中央法規　介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅱ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	専門職能団体の意義と目的を理解する。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護福祉士の倫理について理解することができる。	・教科書　中央法規　介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅱ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	介護に携わる人が持つべき職業倫理や、プライバシーに配慮した介護などを学び、日本介護福祉士会倫理綱領について理解する。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護福祉士の倫理について理解を深めることができる。	・教科書　中央法規　介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅱ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	事例を用いたグループワークを行う。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみを学ぶことができる。	・教科書　中央法規　介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅱ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	介護保険法におけるサービス等の種類や、居宅サービス・施設サービスなどのフォーマルサービスを理解する。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみを理解することができる。	・教科書　中央法規　介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅱ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	介護保険法における、地域密着型サービス・地域支援事業・障害者のためのフォーマルサービスについて理解する。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護福祉を必要とする人の生活を支えるフォーマルサービスについて理解を深めることができる。	・教科書　中央法規　介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅱ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	障害者のためのフォーマルサービスについて理解する。フォーマルサービスについての復習を行う。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護福祉を必要とする人の生活を支えるインフォーマルサービスを理解することができる。	・教科書　中央法規　介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅱ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	フォーマルサービスとの関係性や、一般的に想定されるインフォーマルサービスについて理解する。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	地域連携について理解することができる。	・教科書　中央法規　介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅱ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	地域連携の意義と目的、ユニットケアについて理解する。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	地域連携について理解を深めることができる。	・教科書　中央法規　介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅱ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	地域福祉に関わる組織や団体、担い手について理解する。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護を必要とする方の生活やその支援方法を理解できる。	・教科書　中央法規　介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅱ ・配布資料 ・これまでの配布資料全て	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	試験に向けて、全15回の振り返りを行う。		

2026　年度 授業計画(シラバス)

学科	介護福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	演習
科目名	生活支援技術Ⅲ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対象学年	2年生	学期及び曜時限	後期 水曜日3・4限	教室名	601.502.介護実習室
担当教員	尾崎朱理	実務経験とその関連資格	介護福祉士として介護老人保健施設にて5年勤務		

《授業科目における学習内容》

現場で実際に行われている応用の介護技術について、グループワーク・ビデオ鑑賞を通して学習する。

《成績評価の方法と基準》

科目終了試験(70%)　出席評価点(20%)　平常点(10%)

《使用教材(教科書)及び参考図書》

中央法規出版　新・介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅱ」　第2版

《授業外における学習方法》

・実習で学んだ現場での介護技術を復習しておく
・介護技術の応用について教科書等で予習しておく

《履修に当たっての留意点》

・必ずグループで協力して行う。
・提出物もグループの連帯責任とする。

授業の方法			内容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習を振り返り、現場での体験から介護技術の復習ができる。	新・介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅱ」第2版　レジュメ配布	実習で学んだ介護技術を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	・実習Ⅱ-②のなかで、学んだ現場での介護技術について個々に振り返る。 ・介助の良かったポイント、悪かったポイントを考える。		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習を振り返り、現場での体験から介護技術の復習ができる。	新・介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅱ」第2版　レジュメ配布	実習で学んだ介護技術を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	・実習で学んだ介護技術について、個々に考えたことをグループで話し合う。		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習を振り返り、現場での体験から介護技術の復習ができる。	新・介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅱ」第2版　レジュメ配布	実習で学んだ介護技術を復習しておく。グループでの意見をまとめておく。
		各コマにおける授業予定	グループで話し合った内容をまとめ、発表に向けての準備を行う。		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習を振り返り、現場での体験から介護技術の復習ができる。	新・介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅱ」第2版　レジュメ配布	実習で学んだ介護技術を復習しておく。グループでの意見をまとめておく。
		各コマにおける授業予定	グループワークの内容を発表する。		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習を振り返り、現場での体験から介護技術の復習ができる。	新・介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅱ」第2版　レジュメ配布	実習で学んだ介護技術を復習しておく。グループでの意見をまとめておく。
		各コマにおける授業予定	グループワークの内容を発表する。(前回の続き)		

授業の方法		内　　容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	・応用の移乗方法を身につけ、移乗ができるようになる。	新・介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅱ」第2版　レジュメ配布	授業内容について教科書などで調べておく
		各コマにおける授業予定	スーパートランスについて学習する。（ビデオ鑑賞、実践）		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	・応用の移乗方法を身につけ、移乗ができるようになる。	新・介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅱ」第2版　レジュメ配布	授業内容について教科書などで調べておく
		各コマにおける授業予定	・椅子を使った移乗介助（一部介助、全介助）について学習する。		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	・福祉用具を使用した移乗方法を学び、できるようになる。	新・介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅱ」第2版　レジュメ配布	授業内容について教科書などで調べておく
		各コマにおける授業予定	・スライディングボードやスライディングシートを使用した移乗方法を学習する。		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	・応用の移乗介助を身につけ、移乗ができるようになる。	新・介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅱ」第2版　レジュメ配布	授業内容について教科書などで調べておく
		各コマにおける授業予定	・ビデオ鑑賞 ・床に座った状態から車椅子への移乗方法について学習する。（体育室にて）		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	応用の移乗介助を身につけ、移乗ができるようになる。	新・介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅱ」第2版　レジュメ配布	授業内容について教科書などで調べておく
		各コマにおける授業予定	・床に座った状態から車椅子への移乗方法について学習する（体育室にて）		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	・医療的な知識・技術を身につけることができる。	新・介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅱ」第2版　レジュメ配布	教科書の指定部分を事前に読んでおく
		各コマにおける授業予定	・ストマの使い方、包帯の巻き方、服薬について学習する。		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	・AEDの使い方を身につけることができる。	新・介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅱ」第2版　レジュメ配布	教科書の指定部分を事前に読んでおく
		各コマにおける授業予定	AEDの使い方、使用時の注意点について学習する。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	・後期に学んだ応用の介護技術が身についている。	新・介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅱ」第2版　レジュメ配布	後期に学んだ内容を復習しておく
		各コマにおける授業予定	・後期に学んだ応用の介護技術の振り返りを行い、復習する。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	・後期試験に向けての対策ができる。	新・介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅱ」第2版　レジュメ配布	後期に学んだ内容を復習しておく
		各コマにおける授業予定	・試験内容の発表、対策		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	・後期試験に向けての対策ができる。	新・介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅱ」第2版　レジュメ配布	後期に学んだ内容を復習しておく
		各コマにおける授業予定	・試験内容練習		

2026　年度 授業計画(シラバス)　　大阪保健福祉専門学校

学科	介護福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	コミュニケーション技術(理論)	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対象学年	1年生	学期及び曜時限	前期　金曜1・2限	教室名	401・402
担当教員	森野　祐希	実務経験とその関連資格	特別養護老人ホームにて4年間、デイサービスにて3年間の経験を経て、専任教員として4年間勤務。その後、デイケアにて勤務をしながら非常勤講師として科目を受け持つ。		

《授業科目における学習内容》

利用者・家族との関係作りのための対応や声かけなど実践的なコミュニケーション能力を習得する。援助場面でのコミュニケーションの基盤となる共感や重要等の態度、バイステックの7原則等の概念について理解を深める。利用者の特性に応じたコミュニケーションの具体的な対応や留意点を理解することが出来る。チーム内の記録、報告、カンファレンスにおける留意点や効果的な方法を知ることが出来る。

《成績評価の方法と基準》

科目終了試験:70%、出席評価点:20%、平常評価点10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

教科書中央法規　最新「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術　第2版

《授業外における学習方法》

予習・復習として教科書や資料等の確認を行う。日常の中での人とのかかわりの中で、授業で得た知識を実践し体験を関連付けし、自身のコミュニケーションの得意・不得意について自己分析を行い改善に繋げる。また、施設実習においても授業で得た知識や日頃の体験を活かし、コミュニケーションの重要性や技術について理解を深め実践力を高める。

《履修に当たっての留意点》

利用者やその家族との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力身につける。相手の立場になって考え利用者とその家族に寄り添ったコミュニケーションについて考え、実践力を身に付ける。

授業の方法			内容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	コミュニケーションの意義と目的を理解することが出来る。	教科書中央法規「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術、配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション (自己紹介・科目の意義と目的について)		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護におけるコミュニケーションの意義と目的を理解することが出来る。	教科書中央法規「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術、配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	マズローの基本的欲求段階層説、介護におけるコミュニケーションの目的について理解する。「聞く態度」を意識したコミュニケーションの実践。		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	コミュニケーションの基本を理解することが出来る。	教科書中央法規「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術、配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	援助関係の特徴、自己開示とは、バイステックの7原則。「視線を合わせること」を意識したコミュニケーションの実践。		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	コミュニケーションの基本を理解することが出来る。	教科書中央法規「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術、配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	援助関係を意識したコミュニケーション、傾聴、うなづき、相づち、繰り返し。 「開かれた質問」と「閉じられた質問」を意識したコミュニケーションの実践。		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	コミュニケーションの基本技術を理解する。	教科書中央法規「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術、配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	チームのコミュニケーションについて理解できる。		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	コミュニケーションの基本技術を理解できる。	教科書中央法規「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術、配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	受容、共感、自己覚知、言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本について理解できる。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	コミュニケーションの基本技術を理解できる。	教科書中央法規「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術、配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	傾聴のための技法、受容と共感の大切さを理解する。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	コミュニケーションの基本技術を理解できる。	教科書中央法規「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術、配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	話を聴く態度、相づち、質問の技法を実践する。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	コミュニケーションの基本技術を理解できる。	教科書中央法規「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術、配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	動機づけ、ものの見方の多様性と固定概念について理解する。ネガティブな言葉をポジティブな言葉に置き換える。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	コミュニケーションの基本技術を理解できる。	教科書中央法規「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術、配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	認知症と認知症の方とのコミュニケーションの方法について理解する。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	対象者の特性に応じたコミュニケーションの理解を深めることが出来る。	教科書中央法規「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術、配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	映画「明日の記憶」を視聴。若年性アルツハイマー型認知症の方と家族の支援について考える。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	対象者の特性に応じたコミュニケーションの理解を深めることが出来る。	教科書中央法規「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術、配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	映画「明日の記憶」を視聴。若年性アルツハイマー型認知症の方と家族の支援について考える。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	利用者に応じたコミュニケーションを理解することが出来る。	教科書中央法規「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術、配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	コミュニケーション支援の基本となる留意点や考え方を理解する。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	利用者に応じたコミュニケーションの理解を深めることが出来る。	教科書中央法規「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術、配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	さまざまな障害がもたらすコミュニケーション障害を理解する。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	コミュニケーションのあり方や重要性について考えをまとめることが出来る。	教科書中央法規「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術、配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	試験に向けて全15回の振り返りを実施する。		